

## Close Up

クローズアップ 交通教育センター

# 指導者として必要な安全運転技術とマインドを身につける

(株)ドミノ・ピザ ジャパン(本社:東京都千代田区)は、日本国内で宅配ピザチェーンを展開する企業だ。三輪スクーターなどを利用して配達業務を担当するデリバリークルー(以下、クルー)への安全運転教育は各店舗の責任者であるストアマネージャーが担当している。そのため、同社ではストアマネージャーとなる新入社員を対象に安全運転研修を交通教育センターレインポー埼玉(以下、レインポー埼玉)で実施している。新入社員は毎月入社してくるため、この安全運転研修もほぼ毎月1回行っている。クルーによる交通事故低減に取り組む同社セーフティトレーナーの

吉原吾郎さんは「近年は、原付などバイクの運転経験がない若者がアルバイトのクルーとなるケースが増えています。そうした若者に適切な教育をするためには、指導する側が正しい知識と運転技術を持っていることが求められます。新入社員のほとんどはアルバイトとして配達業務の経験を持っていますから、この研修では交通法規や安全運転の基本を再確認してもらうとともに、指導者としての心構えを身につけてほしいと考えています」と話す。

9月12日に開催された安全運転研修は新入社員7人が参加。実技では反応制動やバランス



実技を始める前に、三輪スクーターの点検方法や正しい乗車姿勢を再確認してもらう



前方にある信号機の点灯を確認したらブレーキをかけて停止する反応制動

訓練、法規走行などの課題に取り組んだ(写真参照)。今回はクルーへの効果的なアドバイス方法を学ぶことを目的とした模擬指導も行われた。交互に指導者役と受講者役となり、法規走行と同じコースを走る。指導者役は受講者役の後方を追従走行し、改善に向けたアドバイスをするのである。最後に、インストラクターが「『ルールだから、その通りにやいなさい』という一方的な指導では相手の心に伝わりません。ルール通りにできていなかった場合は、なぜできないのか考えさせて、その理由を聞いてください。相手の事情を把握することで、より具体的な指導ができます」

と補足した。受講者の山中翼さんは「反応制動では、危険を認知してから停止するまでにかかる距離を実際に確認でき、勉強になりました。急ブレーキを使わないように、『何か飛び出してくるかもしれない』と危険予測しながら運転することの必要性をクルーに伝えていきたいと思います」と研修の感想を語った。また、依屋翔さんは「クルーがミスをして、ただ注意するのではなく、なぜそうしてしまったのか相手の考えを聞いてから対応するようにしたいと思います」と語り、受講者一人ひとりに指導者としての自覚が芽生えているようだった。



バランス訓練の様子。パイロンにはボールが立てられ、車体を傾けた時に屋根が接触しないようにすることも意識してもらう



受講者が2人1組で互いに法規走行のコースを追従走行し、各々の運転を評価し合う



## Close Up

クローズアップ 四輪販売会社

# 幼児に交通安全への関心を高めてもらう Honda Cars 山陰中央の活動

鳥取県内に8拠点を展開するHonda Cars山陰中央(本社:鳥取県米子市)は5年ほど前から「あやとりい ひよこ編※」(以下、あやとりい)を取り入れ、同社のスタッフが近隣の幼稚園などに出向いて幼児向けの交通安全教室を実施している。こうした活動の意義を同社法人販売課課長の入澤一志さんは次のように説明する。「『あやとりい』を使った活動によって、子どもたちの交通安全への関心が高まることを期待しています。そして、これが家族で交通安全について話すきっかけとなって、家族での教育の推進に役立つことを期待していますし、親である大人の安全意識も高めていければいいと考えています」。

9月15日は同社スタッフの森本愛季さんと岩野麻美さんがにしき幼稚園(米子市)を訪問。「あやとりい」を使って、園児に問いかけながら、道路で歩くべき場所や、歩行者用信号機が青、青点滅、赤の時にとるべき行動などを伝えた。今回は鳥取県を本拠地とするJリーグ加盟のサッカークラブ「ガイナレ鳥取」と連携し、同チームのマスコットキャラクター「ガイナマン」も参加した。森本さんと岩野さんは路側帯のある道路のイラストを見せ、「どこを歩けばいいでしょう?」とガイナマンに女の子のイラストを手渡すと、路側帯の外側(車道)に貼ってしまう。すると、園児たちから「違う!」という声が上がった。そして、ガイナマンが指名した園児がイラストを路側



わざと間違った答えを示す「ガイナマン」に園児が正しい道路の歩き方を教えてあげる



帯の内側に貼り、正しい場所をガイナマンに教える。森本さんは「今回は私たちの質問にガイナマンがわざと間違え、それを園児に正してもらうという形式で進めることにしました。ガイナマンの存在を活かして、交通安全教室を盛り上げられたのでよかったと思います」と話す。今回初めて指導者役を務めたという岩野さんは「道路には子どもの知らない危険がたくさんあります。幼児期から安全に対する意識を高めておくことはとても重要だと感じました。今日はその手伝いができたので、うれしく思います」と語った。にしき幼稚園園長の塚田京子さんは「Hondaのお店の協力があって、このような交通安全教室を開催することができました。スタッフ

の方の説明もわかりやすく、イラストを見ながら考えるように工夫されていたので、子どもたちにとって有意義な時間になったと思います」と語った。今後、Honda Cars山陰中央では活動範囲を本社のある鳥取県の西部地区だけでなく、東部地区にも広げていく考えだ。

※あやとりい ひよこ編=4~5歳児に幼稚園や保育園等の集団教育の中で「音(交通環境音)の理解」「必ず止まること」「必ず観ること」「信号機の理解」という交通安全の基本を繰り返し学ぶことができる交通安全教育プログラム。「あやとりい」は「あんぜんを やさしくときあかしりかいていただく」の略。詳細は以下のホームページを参照。  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/ayatorii1.html>



交通安全教室の導入では音当てクイズを実施。街で耳にする音を再生し、それが何かを園児に答えてもらう



見通しの悪い場所から道路を横断する時は渡る前に一度止まって右、左、右を観ることを強調



Honda Cars山陰中央 本社総務の森本愛季さん(左)、本社経理の岩野麻美さん(右)と「ガイナマン」(中央)